

令和6年度 第4回 宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録

日時：令和7年3月14日（金）午後2時00分～

場所：宇城市役所 本館3階 第1会議室

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

(1) 宇城市地方創生総合戦略案について

(2) 宇城市過疎地域持続的発展計画の中間評価について

(3) その他

4 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 有識者会議委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 諮問書（写）
- ・ 【資料1】 宇城市地方創生総合戦略案
- ・ 【資料2】 宇城市過疎地域持続的発展計画の中間評価について

1 開会

欠席委員：植田委員、藤本委員

2 会長挨拶

前回からあまり時間は経っていませんが、総合戦略の案について委員の皆様
に意見をまとめていただきたいということです。文言等含めてお気づきの点が
ございましたら、ご忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

3 議事

(事務局)

議事については、有識者会議運営要綱の規定により、会長に議事進行をお願い
する。

(会長)

それでは議事に入る。(1) 宇城市地方創生総合戦略案について事務局から説
明をお願いします。

(事務局)

【資料 1】宇城市地方創生総合戦略案について説明

(会長)

事務局の説明に関して、委員の皆様から御意見、御質問等はないか。

(会長)

こどもの笑顔をつくるまちのK P Iで、「普段の生活の中で幸せな気持ちにな
ることがよくある児童生徒の割合」について、現状と目標は小学校、中学校では
なく、小学生、中学生の方が望ましいのかなという気がする。

(事務局)

そのように変更する。

(委員)

単純な質問だが、数値目標やK P Iを設定した根拠というものはあるのか。

(事務局)

数値目標については、基本目標としている4つのことの進捗を数値で測れる

ものとして選定した。

(委員)

現状については今の現状ということで数値が出ているのだろうが、例えば児童生徒の割合で、目標を55%とした根拠というのは何かあるのかなと思いでして。

(事務局)

55%というのは、熊本県の総合戦略の中でも同様のものが指標として出ており、現状は県も宇城市も全国より低い状況だが、それを超えて55%ということで設定されているため、宇城市においてもそこを目指していくということで設定した。

(委員)

では、他の項目についても全国平均や県の目標などに基づいて設定しているということか。

(事務局)

そのようにしている。また、指標の中で、右矢印のものについては、人が減っていくけれども現状を維持していくということで、現状維持ではあるが、頑張っでそれを維持するというような目標となっている。

(会長)

今の説明で、例えば「要介護認定率」などは、少子高齢化が進むので、放っておけば数値は上がる。現状17%で、これよりも上がらないようにしましょうということ。率で表すと分子と分母で、勝手に上がるものもあるので、率の場合の分子と分母のどちらの方に施策を打つのかということは、今後それぞれ担当課で検討いただければと思う。

(委員)

総所得金額等が数値目標となっていて、その下のKPIが達成していけばこの目標も達成していくということだろう。「農業生産額」とかそんなに大きく増えるわけではないが、その下の「製造業における粗付加価値額」がかなり増える目標となっていて、付加価値額と所得がかならずしもイコールではないが、これは、これだけ見ると製造業で総所得が増えるというシナリオをお持ちなのか。

(事務局)

それのみで増やすということではなく、市に働く人を呼び込んで、そもそも所得を得る人を増やすということも関連して考えたところ。

(委員)

25, 26 ページで、目標の方向ということで矢印が入っていて、上の方は前向きなものかなと見ていたが、例えば「待機児童」について、0人に減らすということで下向きの矢印になっているが、これは良いことなのか。

(事務局)

減ることが良いことである。

(委員)

施策としては良いことだけど下向きということで、ぱっと見悪化するようなイメージをもってしまうかもしれない。

(会長)

矢印ですか、言葉で「改善」あるいは「変化なし」とかでやった方が、ミスリーディングは防げるのかなと思う。どうしても右下がりの矢印だと悪化しているように捉えられがち。実質的にはKPIの数値自体の方向性を言っているわけだから、その辺がミスリーディングにならないような表現をして、矢印をそのままにするのであれば、「目標の方向」というのを本来の趣旨が通じる言葉に置き換えてもらえれば。

(委員)

KPIというのは悪化する項目というものはあるのか。ないのであれば、会長がおっしゃられたように「改善」か「維持」という表現でいいのではないかと思う。

(会長)

行政のプランですので、当然悪化する目標というのは設定されていないと思う。

(事務局)

表現を再度検討して修正する。

(委員)

「老朽空き家の解体件数」が現状年間4件で、令和10年に年間10件とあるが、これは0になった方がいいわけで。これだと空き家を増やしてどんどん壊していかないといけないみたいな感じにもなるような気がする。

解体を促すというのはもちろん大事なのだろうけど、5年後に10棟に増やすではなくて、もっと早くやってしまっただけで全体の数を減らすという方が目的なんじゃないかなと思う。危険家屋の総数を減らすというのが目的だと思うので、KPIとしてはいいのかもしれないが、ちょっと違和感がある。

(会長)

KPIにするときに率と実数があるが、委員が言われたように、例えば宇城市に現状で対象家屋が何棟あって、そのうちの4棟が今年なのか、それがわからないので、じゃあ10棟に増えれば宇城市に危険な空き家はなくなるのか、それが見えてこない。その辺で、実数をKPIにするときは全体がわかるようにしておかないと、ちょっと理解できないというところがあるので、気を付けないといけない。

(委員)

パーセントの方が分かりやすい気がする。

(会長)

今のこれだと分子だけで、分母の値が分からないので、解体率にするなど。

(委員)

前回から追加した指標を教えてください。

(事務局)

「普段の生活で幸せな気持ちになることがよくある児童生徒の割合」、「熊本県学力・学習状況調査における正答率で全国平均を上回った教科数」、「総所得金額等の額」、「製造業における粗付加価値額」、「移住施策を活用した年間移住者数」、「不知火美術館図書館延べ来館者数」、「三角西港来訪者数」を追加している。

(委員)

以前言ったが、行政の施策が影響を及ぼすかどうか、どれだけやってもそういうところもまで変えられないよという、そこがKPIに馴染むかどうかという視点で見た時に、追加の分ではそこまで、まあ「製造業における粗付加価値額」

は少しどうかかなと思ったが、いろいろ施策は打たれると思うのでそうしたところから上げることに繋がると思うが、「刑法犯認知件数」というのは具体的には何をされるのか。防犯灯などか。ここはやっぱりこれを掲げた方がいいのか。刑法犯というのはものすごく幅が広くて、空き巣から自転車の窃盗から詐欺などもある。

(事務局)

防犯灯であったり、防犯に関する啓発だったりをしている。あとは基本目標の「住みよく安心できるまち」に繋がるということで、皆さんに安心して住んでもらうということの指標として入れたところ。

(委員)

よく言われるのが、経済環境が悪化すると犯罪は増える。県でも、そこは県の施策をどれだけやってもという話もあったりするので、そこはどうかかなと思ったが、バックボーンがしっかりあるのであればそれで良いかなとは思っている。そのあたりは注意が必要かなと思う。

(会長)

委員が言われたように、経済学では、所得分配、公平度が歪めば歪むほど犯罪は増える。だから、個々のK P I がそれぞれ単独で測れるものと、なにがしかの他の変数が影響を与えるということが他のK P I も含めてあるので。

刑法犯は146件なのか。

(事務局)

認知件数なので、通報があった件数である。防犯カメラを付けたり、パトロールを強化したりといったことで、抑止力強化をするということが考えられる。

(委員)

「多様な人々の流れをつくるまち」の4つのK P I の中で「不知火美術館図書館の来場者数」だけ減っているのはなぜか。

(事務局)

維持する目標ということで聞いているので、数値の誤りである。申し訳ありません。

(委員)

ここで、三角西港だったり不知火美術館図書館だったりということで具体的な名称が出ている。指定管理だと思うが、不知火美術館に対して市が何かをやるということか。本文の中ではそのようなことは具体的には書かれていないと思ったが。

(事務局)

本文の方では、具体的な内容という風にはしていない。K P Iとしたのは、市の中で人を呼び込むといったところで、不知火美術館図書館については、子供連れの家族など多くの人に来ていただいているので、指定管理をお願いはしているが、市としても一緒になって人を呼び込んで、そこから宇城市内に繋げていくということでK P Iとしているところ。三角西港についても、今年10周年の記念の年となっているので、宇城市の観光の核としてやっていきたいということで、K P Iとしたところ。

(委員)

そういった意味合いからするならば、K P Iの「公民館講座受講者数」もそうだが、ウイングなんかでもいろんな講座をやったりとか人を呼んだりとかしているんで、そういったところも入れてもいいんじゃないかと思う。あとは物産館とかも集客は多いと思うので、そういったところも絡めてもいいのではないか。

(事務局)

ウイングについては庁内で確認する。物産館については、年間の売上額をK P Iとして入れている。

(委員)

ウイングは指定管理の報告で数値はあると思う。そういったことに対して市の方で何か取り組みをやるということですね。

(事務局)

そこを上げていくために市としても取り組みをしていくというところ。

(委員)

委員がさっき言われていたように、市が関与できる部分できない部分があると思う。関与できない目標であれば、入れても目標は達成できないと思うので、そういったところをもうちょっと厳しくというか、精査した方がいいかなと思

ったところ。

(会長)

関連して、指定管理のところは、選定の時にどれだけの事業内容があるか、そこでみれるはず。あるいは新規で何かやろうとしたら、契約の追加とかすればいいだけだと思うので、指定管理の選考段階でどういった市の方向性を実現させる指定管理を導入するか、きちんとした事業計画のある所を選定すればいいだけの話。市が何か追加で、もうちょっと自主事業してもらいたいとか、人を呼ぶためのものなのか、あるいは売り上げを伸ばすためのものなのか、普通は両方繋がるが、そんな感じで、市が何か直接するわけではなくて、指定管理の業者にさせればいい話なので、その点からすると、不知火が現状維持でいいのか、45、50とかするのか。

(事務局)

美術館からも指定管理の中で、毎年事業計画を出してもらっている。その中で、こういう事業をやりたいんだというような主張もあって、そういったところで行政の関与もある。

(会長)

観光にかかるKPIについては、私はすべて改善、上に上がるような目標のものを掲げた方が望ましいのかなという気がする。本文の中で、交流人口や関係人口といった人との交流をしたいと市が言っているわけだから、この分野については基本的には右肩上がりの目標を設定するようなKPIを入れた方が、全体を通じて整合性が取れるのではないかな。

(委員)

「宇城市に住み続けたいと思う市民の割合」の数値というのはどうやって取られたのか。

(事務局)

そちらと「宇城市に愛着を持っている市民の割合」については、市の総合計画策定に当たり実施した市民アンケートの項目である。

(委員)

その回収率というのはどれくらいだったのか。

(事務局)

3,000人を母数としたもので、30%に届かないくらい。回収率的にはよくはないと思うが、統計学上、400弱の回答があれば有効な結果といえるとなっているので、そちらを使っているところ。

(委員)

対象者はどのように選ばれているのか。

(事務局)

住民登録のある18歳以上を対象に男女、町別の割合で無作為抽出した。

(委員)

3,000に絞ったうえで、その30%ということで有効なのか。

(会長)

統計学の定義があり、それ上では有効という風になっている。30%は切っていたが、大体自治体のアンケートで30を超えるところはあまりない。今回宇城市は、今までは基本的には郵送で送って、手書きだったが、そうではなくて、フォームをつくって基本的にはネットで回答してもらおうという風にされたので、そういった意味では、アンケートにかかっていたコストの削減であったり、よりデータ処理の効率化になったのではないかと思う。

(委員)

アンケートの結果には、いいところだけでなく悪いところとかについてもあるのか。そういったところの分析というのはされているのか。

(事務局)

まだ公表ができていないが、近々皆さんにも見ていただけるような形で公表をしたいと考えている。

(会長)

市の最上位計画である総合計画についても同じ時間で策定が進められているので、そちらが公表される際にアンケートの結果などについてもオープンになるかと思う。

(委員)

「こどもの笑顔をつくるまち」のKPIの5, 6番目で、ここだけ全国平均というのがあるが、すぐに出るのか。毎年比較しようとした場合に、結果が分かるのかなと思ひまして。

(事務局)

都道府県や市町村の結果と一緒に全国も公表されており、今までも毎年の評価として使っていたものでもあるため、問題ないかと思う。

(委員)

先ほどの「住み続けたいと思う市民の割合」のところ、住み続けたいという方が80何%いらっしゃっても社会減ということは、住んでいる人にもだが、出ていった人にもなぜ出ていくのかということを知っていていかないと解決になかなか近づかないのではないかという気がした。その辺はいかがか。

残っている方は住み続けたいと思っているから当然残るのだろうが、本文にあるように20代など転入出ともに数が多いということは、出ていく人の話も聞かないといけないのかなと思う。

(事務局)

転入出の届けを出された方に任意のアンケートはとっているが、必須とはしていないので、今後そういった情報の取り方などについても検討していきたい。

(会長)

あらゆる施策において、スマート化やDX化が進められているが、今スマート化の定義がかなり広がってきている。当初は単純にスリム化したらよいということだったが、どんどんプラスαされている。土台としてDXがあって、そのうえで個々の内容に事業遂行から効率性、付加価値創造など全て含めてスマート化。それぞれの事業がスマート化しないといけない。そういったDXを土台とした色々な情報、転入出であれば今は窓口に来ないといけないが、そのちょっとした待ち時間に書いてもらうのではなく、入力するフォーマットを渡して答えてもらうなど、時代の変化とともにアンケートの取り方なども変わらなうと思うので、そういった形で考えていってもらえればと思う。

(委員)

KPIが出てきたが、昨年度の評価の際には、各課の事業毎にそれぞれKPIを設定してという形になっていたかと思うが、今回はこれの下に各課のものが

できてきて、それを基にK P Iを設定する。評価の際はその結果を集約して戦略のK P Iの達成がどうだったのかということを見ていくということか。

(事務局)

そのようになる。

(委員)

K P Iの設定のところで、「地域学校協働活動に参加した地域住民の年間延べ人数」が現状315人で目標3,000人と目標を掲げられているが、高い目標となっている理由は何かあるか。

(事務局)

担当課に確認したところ、活動数が令和5年度138件、令和6年度211件と増加しており、参加した住民の数についての令和6年度の現時点で約1,500人となっていることから、それを加味して目値を設定したとのことであった。

(委員)

戦略案の24ページに横断的取組とあり、SDGsやデジタルの視点ということで書いてある。この前までが4つの項目、そして横断的取組でこういう風にやりますとあるが、この内容は文章的に「7戦略の推進」のところに入る気がする。ここに書いてあると、これに対する目標設定やK P Iを出していないとおかしいような感じがする。

(会長)

SDGsとDXは横断的に取り組むというよりも、前提条件で4つの基本目標に取り組むという形になるので、委員が言われたように「7戦略の推進」のところを3項目にするか。

SDGsとDXは取組ではなく、SDGsは目的、DXは手段なので、SDGsは結果として結び付くもの、DXは前提条件になる。文言としてはこの2つは必要なので、その辺の書きぶりを再度事務局で考えていただければ。

(事務局)

記載箇所含め、検討し修正する。

(会長)

その他御意見がなければ、次の議題に移る。

(2) 宇城市過疎地域持続的発展計画の中間評価について事務局から説明をお願いする。

(事務局)

【資料2】宇城市過疎地域持続的発展計画の中間評価について説明

(会長)

事務局の説明に関して、委員の皆様から御意見御質問等はないか。

(委員)

前回の会議の中で、やらないというものもあったかと思うが、今回の資料のどれにあたるか。

(事務局)

事業計画の見直しのところに入っている。そもそもやらない、規模を縮小するというようなものも見直しのところ。事業自体は見直しをしないが、予算の都合や他のものを優先したために時期がずれたものについては時期の変更のところに入っている。

(委員)

今回は中間報告であるが、最終的にはまた報告となると思うが、やらないというのは今の時点ではなくて、最終報告でやらなかったという形で出すということか。

(会長)

内容に関する御意見については、前回多くいただいたかと思うので、本日の資料に基づいて報告していただければと思う。

(会長)

それでは、(3) その他に移る。委員の皆様から何か御発言はあるか。

(会長)

特になければ、以上ですべての議事が終了した。事務局にお返しする。

(事務局)

有識者会議については、本日の会議が最後となるが、今後ともそれぞれの立場から御協力賜りたい。以上をもって令和6年度第4回まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会する。